

研究活動報告

2026年韓国生活時間調査学術会議

令和8年5月8日、韓国国家データ処の主催により、「2026年韓国生活時間調査学術会議」が、韓国・ソウル市内にある The Plaza ホテルにて開催された。韓国国家データ処の国民時間移転勘定 (National Time Transfer Accounts: NTTA) 作成チームからの依頼により、当研究所より福田節也・企画部第4室長が参加し、「生活時間調査を用いたサテライト勘定の発展と適用及び将来に向けた議論」と題するセッションで、以下の研究発表及び討論を行った。

Fukuda, S. “National Time Transfer Accounts in Japan: Measuring Intergenerational Transfers of Unpaid Work.”

本研究会議では、韓国における直近の生活時間調査である2024年調査データを用いた分析を中心に、韓国国内の研究者や統計局職員から報告が寄せられた。また、基調講演では、国際生活時間学会 (International Association for Time Use Research) 現副会長の Ki-Soo Eun 教授並びに同学会元会長の Ignace Glorieux 教授が登壇し、韓国やヨーロッパの生活時間調査の動向や調査手法の変遷、分析結果等についての報告が行われた。また、長らくヨーロッパでは実施されていなかった生活時間調査が今年・来年を目途に数か国で実施予定であるとの情報は有益であった。韓国における生活時間研究の官民を挙げた取り組みを垣間見る貴重な機会となった。

(福田節也 記)

ヨーロッパ人口学会2026年大会

令和8年6月3日 (水)～6日 (土) にかけて、ヨーロッパ人口学会2026年大会 (European Population Conference 2026: EPC2026) がイタリア・ボローニャにて開催された。同大会は、1年おきに開催される人口学分野における主要な国際会議の一つであり、世界各国の研究者および関連機関の専門家が参加する。本会議では、人口動向、家族、労働、市場、健康、高齢化など多岐にわたるテーマについて最新の研究成果が報告され、国際的な学術交流が行われた。

本研究所からは、人口構造研究部・菅主太室長が韓国保健社会研究院 (KIHASA) の曹 成虎 (チョ・ソンホ) 博士と共同で以下のポスター報告を行った。

Suga, K. and S. Cho. “Marriage Squeezes in Korean and Japanese Regions”

また、企画部・福田節也室長は、本会議に先立ち開催される EAPS (European Association for Population Studies) ワーキンググループ Sustainable Ageing 主催によるサイドミーティングにおいて、以下の報告を行った。

Fukuda, S., E. Hertog, R. Matsukura, N. Nagase. “When Housework Gets Automated: Implications for Labour Supply”